

平成 30 年度 みんなで地域を考える会 【鴨居連合自治会】

平成 30 年 7 月 7 日 (土) 15:00~17:00

場所：鴨居会館

参加者：41 名 (うち行政関係者 12 名)

【テーマ】
地域と子どもたちのつながりに
ついて

基調提起 木村連合自治会長

一昨年のこの会を契機に作成した加入促進のパンフレットを、横浜市の事例発表会で紹介するなど、この会の開催が具体的な活動と成果につながっている。今年は地域と子どもたちとのつながりについて考えたい。昨今、子どもをめぐる痛ましい事件もあり、子どもと自治会がつながっていないと感じている。お互いに挨拶を交わすことで、地域の安全につながればと思う。そのためにもどのように接点を持ち、進めていけばよいか、各グループとも何らかの具体的な結論を発表していただきたい。



グループA

学校では、子どもに挨拶を禁じる指導はしていないので、大人から積極的に挨拶したほうが良い。知らない人に挨拶し、返事をしてもらえないのは辛いものだが、繰り返し、しつこいくらいの気持ちが大切。大人同士の挨拶をしっかり見せることが防犯にもつながる。

具体的な取り組みとしては、危険箇所(犯罪があった、見通し悪いなど)のハザードマップを作って地域で共有してはどうか。また、今日の様な会合に子どもも参加できれば、挨拶から一歩踏み込んで顔見知りになれる。

また、学校やPTAではポスターや会報などで挨拶活動を広める支援をしてもらえればよいのではないかと。



グループB



挨拶は地域の基本だと思う。簡単なようでなかなかできないことだが、挨拶によって知っている人が増え、安心感につながると思う。

現状の問題としてはPTAに参加する時間的余裕がない人が多いこと。大人同士がきちんと挨拶できていないことなどがある。

具体的な取り組みとしては、行くと安心する場所(こども110番の家)や、遊びや工作などの技術を持っている人などをマップ化してはどうか(人材マップ、駆け込みマップ)。そのマップを学校の野外活動でも活用してくれれば良い。他に、登下校の見守りを老人会がサポートするなどの意見も出た。

グループC

鴨居は地域のイベントが非常に多い。従来のイベントは大人が企画し、子どもを招くものだが、そのイベントを子ども達と「共催」する、運営に加わることで、地域と大人と子供がより密接になれるのではないかと。

また、見知らぬ者同士の挨拶は大人も子どもも敷居が高く、パワーを使うもの。その課題を解決するために、「缶バッジ」による活動を提案したい。地域の大人が胸や鞆に缶バッジをつけることで、子どもが「地域の人」という認識が生まれ、大人も挨拶への心理的抵抗がなくなる。これは京都市の中学校での実例があり、挨拶の効果を上げただけでなく、中学生自身も自らバッジをつけて小学生の見守りに貢献するという広がりも見せている。



グループD



学校・家庭・地域の連携で子どもの安全を守る方法を議論した。学校では挨拶をしつつも安全な距離感を教え、地域では見かけない人に対しても積極的に挨拶を交わしていく。また、登校時だけでなく、下校時にも挨拶をしようという話もあった。一方で、子どもも守ってもらうだけでなく、自分でもどうするかを考えるべきという意見もあった。

学校では、学年を超えたタテのつながりを作る試みをしていて、それが子どもの社会性の発達につながっていると聞く。その関係を地域にも持ち込めれば、やがて大人になってから“おやじの会(※)”などに入ってくれることにつながるのだろうか。

地域のイベントでは、大人と子どもは集団同士の接点でしかない。それを個々のつながりにつながるような仕掛けができれば良いと思う。

※父親も子育て、家庭教育に参加することを目的に、PTA 会員である父親を中心にボランティア活動を行っている団体。

アンケートの意見

- ・子どもたちのことを思ってください皆さんのお話が聞けてとてもありがたい会でした。
- ・大人だけが話し合っても、子どもたちが知らないのはもったいないので、子どもの参加も必要だと思います。
- ・地域の方たちが子どもたちのことを真剣に考え、様々な案を出して下さり本当に鴨居の子どもたちは幸せだなと感じました。
- ・もう少し時間をかけて意見を聞きたいです。

当日の会場の様子



発言内容は紙面の都合上、趣旨を踏まえて一部編集を行っています。